

1 取組・活動名

「生徒会主催のボランティア活動」

2 取組・活動のねらい

- 生徒会の自治的活動に参加することを通して、互いに協力して改善・向上を図ろうとする実践力を高める。
- 社会におこる問題や課題に関心を持ち、自主的・自発的に解決していこうとする態度を育てる。
- 多様な活動を体験する中で、自らの存在を実感し、共に支え合う社会の実現に向けて寄与する姿勢を身に付ける。

3 教育課程上の位置付け

「特別活動・5～7時間程度」

4 実施上の工夫

- ・ 生徒総会においてボランティア活動の実施が承認されたことを重視させ、ボランティア活動が共通の方針の下、協力して行う活動であることを認識させた。
- ・ 生徒が参加しやすい雰囲気や環境をつくった。ポスターを掲示したり、朝礼や放送で呼びかけたりした。
- ・ ボランティア活動は一人一人の自由意志に基づく主体的・自発的な活動であり、強制はしない。そのため、朝、放課後、休日に実施している。

5 本取組・活動の内容

「地域公園清掃」

- ・ 毎週水曜日登校前の7時50分から8時10分まで、考査や行事などのある週は除いてほぼ毎週、学校周辺の道路や学校近隣の公園を清掃している。
- ・ 7時45分ボランティアに参加する生徒が玄関に集合し、生徒会役員の指示で各方面に分かれ、一人一人がほうきやゴミ取りばさみ、ちりとりを持って分担して作業している。桜の花びらが舞う頃や落ち葉の季節は作業場所がさらに拡大し、やりがいを感じている。
- ・ 毎回、30名から50名余の生徒が参加し、教職員も活動を見守り数名参加した。宣伝活動としてのぼりを作成した。その、のぼりを掲げながら地域や公園を巡り、清掃している。地域の方にも励まされ賞賛の声が上がっている。



「校内美化活動（ペンキ塗り）」



- ・ 生徒会と学校支援地域本部の共催で実施した。事前にボランティア募集のポスター作成を呼びかけ、美術部やパソコン部、一般生徒から作品が出品され掲示した。
- ・ 当日は地域の専門家の方から下地塗りやペンキの塗り方を指導していただいた。学校支援地域本部のコーディネーター・保護者・生徒・関係者が協力して2時間ほどかけて、校舎の壁のペンキ塗りを行った。
- ・ 生徒はペンキ塗りだけでなく、養生などの事前準備や後片付けにも参加した。



「熊本地震被災中学校への支援活動」



- ・ 生徒総会において熊本地震の被災に対し何か支援活動ができないか提案された。熊本県の中学校に情報提供を打診したところ、校舎が全壊しプレハブの仮校舎で生活していることが分かった。
- ・ プレハブ校舎が金属性の壁のため、画鋲で掲示物が留められずマグネットが必要であることも分かり、生徒会で熊本地震や被害状況について調べて発表するとともに、マグネットの回収を呼びかけ、回収してマグネットを発送した。

6 成果

- ・ 自らすすんで行う活動や継続して行う活動に積極的に参加し、生徒が気付き・学び・発見する喜びを実感させることができた。
- ・ 短時間でもたくさん生徒の活躍できる機会を提供することで、生徒に自己有用感をもたせたり、他者貢献したりする大切さを意識させることができた。
- ・ 朝礼や昼の放送で繰り返し呼びかけたり、ポスターを作成したりして、生徒がボランティア活動に参加しようとする雰囲気をつくっていくことができた。また、集団として参加しなくても、一人で行うポスターづくりや時間に固定されない活動など多様なボランティア活動の形態があることを知ることができた。
- ・ 生徒会がテーマやスローガンを掲げて集団としてボランティア活動を進めることによって、自律ある組織として成長していく様子が見られた。